



教育目標 ◎自分で深く考える子 ◎思いやりをもって助け合う子 ◎がんばってやりとげる子  
※ 予定は変更になる場合があります。その際は、再度お知らせいたします。

～一人一人が輝き、幸せな学校～

# 佐々木小

令和7年9月29日

新発田市立佐々木小学校

学校だより 第12号



## 豊かな自然に囲まれて！

自然とふれ合う子どもたちの姿はいつもとちょっと違います。

川の探検に行けば、水の色、せせらぎ、水の冷たさ、水や泥の匂いを、自然教室に行けば、木々の葉の色、鳥や虫の鳴き声、草の手触り、草花の匂い、果実の味を、五感を働かせながら、感じ取っています。とても無邪気な表情で。

学校の周りには、子どもたちの心を刺激する自然がいっぱいです。たくさんの自然とふれあう機会を増やし、自然を愛し、自然を大切にする心をもっともつと育てます！



## 9時33分 ~できることから始めよう~

校長 金平 弘之郎

9時33分、この時刻は、今年の「環境危機時計」で示された時刻です。この時計は、旭硝子財団が毎年世界各地の有識者へ行ったアンケートの結果を基にして、環境悪化による人類存続の危機の程度を0時～12時までの時間で示したもので。今年の9時33分は「極めて不安」の時間帯にあたります。この結果は「気候変動」「生物多様性」「社会、経済と環境、施策」などの不安要素から算出されたとのことです。と言われても、地球規模のことなので、私たちはあまり実感が湧いてこないかも知れません。しかし、最近の猛暑、日照り、豪雨等を体感すると、私たちの身近な環境にもいよいよ変化が出始めているのかなと感じる方も多いのではないでしょうか。

では、そんな時計を示されたから、その危機に対し「私たちは何をすべきか。」と問われたら、何をすればいいのでしょうか。自分だけ車を使うのを止めよう、ガス・水道・電気を使うのを止めようとしたところで、周りのみんなが使っていたら、事態は変わらず、自分だけ損をしているような気持ちになってしまいます。ましては、この事態が自分だけの責任で起こっているわけではないので、自分だけ我慢して頑張らなくてもいいような気がします。「誰かがやってくれるはず！」と。

でも、大人である自分たちだけなら、「あと数十年くらいは何とかなるさ。」で済みそうですが、その先の未来がある子どもたちのことを思うと、他人事で済ますわけにもいかなくなります。そんなジレンマが生まれてくるのです。やはり環境問題は一筋縄ではいかない、とても難しい問題です。

さて、難しい問題に対しては、易しい部分、できる部分から、まずは取り組むべしという鉄則があります。例えば、難しい試験の問題には、皆さんそうやってきたことでしょう。だから、この環境問題に対しては、不可能に思えても、難しく考えず、自分たちができるを見付け、コツコツと取り組むことが大切です。それを積み重ねれば、少しずつ変わっていくはずです。その視点では、学校で取り組んでいる環境教育は、明るい未来のための必要不可欠な学習であると言えるでしょう。

佐々木小学校では、生活科、理科、社会、総合的な学習、特別活動などの教育活動の中で、この佐々木地区の豊かな自然環境を生かして、環境教育を進めています。今、4年生は総合的な学習で、「古太田川」をテーマにして、佐々木地区や福島潟水系の自然環境について時間をかけて調べています。「古太田川」の学習の中で、この地で暮らしてきた人々がこの自然環境とどのように向き合い、どのように共生してきたか知ることで、環境問題に対するたくさんのヒントを得ています。

ボランティア委員会では、エコボトル運動を始めとする様々なエコ活動を推進しています。子どもたち同士の協力の輪を広げて行く中で、小さなことでもコツコツ積み重ねていく大切さを実感しています。

このように学校では、環境教育をとおして、身近な地域を愛し自然環境を大切にする心をもつ子どもや小さなことでも粘り強くコツコツと取り組む子どもを育てていこうと力を入れています。そして、子どもたちが大人になっても環境問題への関心を持ち続け、それを意識した生活を心掛ければ、きっと未来の環境が好転していくはずです。

新発田市は2021年に「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。佐々木小学校は、新発田市の環境政策の指針に沿って、環境教育をとおして、佐々木地区、新発田市、新潟県の豊かな自然、恵まれた環境を愛し、親しみ、大切にしていこうとする子どもたちを育てていきます。この新発田市の子どもたちの力で、近い将来、時計の針も0時に向けて動き出していくことでしょう。

